

労働慣行

労働慣行

労働安全衛生マネジメントシステム

労働災害発生状況

施工現場での労働安全衛生活動

安全衛生教育研修の実施

社会性目標と実績

【自己評価の基準について】

○ … 目標を達成 △ … 達成できなかったが目標に近付いた × … 目標に向けた改善ができなかった

従業員とともに

Plan	2015年度目標	「人材サステナビリティ」宣言に基づき、より一層「従業員が幸せを感じ、生き生きと仕事ができる企業集団」となるよう多面的に取り組む
Do	2015年度の活動内容	従業員のやりがい、納得度を高めるべく、制度の利用と周知を図り、企業理念に基づく活力あふれる組織風土を推進
Check	評価	○
Action	2016年度目標	「人材サステナビリティ」宣言に基づき、より一層「従業員が幸せを感じ、生き生きと仕事ができる企業集団」となるよう多面的に取り組む
	関連する取り組み	CSV戦略⑤ダイバーシティの推進と人材育成 <u>課題の背景とアプローチ</u> <u>活動方針1:ダイバーシティの推進</u>

Plan	2015年度目標	女性が成果を出しながら、いきいきと働き続けることができる環境の整備と意識改革による女性活躍のさらなる推進
Do	2015年度の活動内容	2016年、3度目の東証「なでしこ銘柄」に住宅・建設業界から選定。女性営業・技術職で優秀な業績を挙げながら、結婚、出産、育児を経験した従業員が徐々に増加。女性管理職も増加し、グループで114人となった(女性管理職比率2.43%)
Check	評価	○
Action	2016年度目標	生き生きと働き続けることができる環境の整備と意識改革による女性活躍のさらなる推進
	関連する取り組み	CSV戦略⑤ダイバーシティの推進と人材育成 課題の背景とアプローチ 活動方針1:ダイバーシティの推進

Plan	2015年度目標	社内諸制度の利用を促進し、多様な人材の活用を進める。障がい者雇用は喫緊の課題として取り組む
Do	2015年度の活動内容	職群転換制度により19人が職群転換。退職者復職登録制度を活用しこれまでに25人が復職。障がい者雇用率は2.21%となり、法定雇用率を達成
Check	評価	○
Action	2016年度目標	社内諸制度の利用を促進し、多様な人材の活用を促進。障がい者雇用は喫緊の課題として取り組む
	関連する取り組み	CSV戦略⑤ダイバーシティの推進と人材育成 課題の背景とアプローチ 活動方針1:ダイバーシティの推進

Plan	2015年度目標	労務管理コンプライアンスを徹底し、多様な働き方とワーク・ライフ・バランスを支援する
Do	2015年度の活動内容	次世代育成へ積極的に取り組む企業として認定マーク「くるみん」を取得(4度目)。育児休業取得者は402人、短時間勤務制度の利用者は814人といずれも増加。また研修により、働き方の変革や業務改善による生産性の向上を促進。女性の育児休業取得後の復職率は93.5%
Check	評価	○
Action	2016年度目標	労務管理コンプライアンスを徹底し、多様な働き方とワーク・ライフ・バランスを支援する
	関連する取り組み	CSV戦略⑤ダイバーシティの推進と人材育成 <u>課題の背景とアプローチ</u> <u>活動方針1:ダイバーシティの推進</u>

Plan	2015年度目標	各事業所の安全衛生委員会の積極活用等により労働安全衛生を一層推進する
Do	2015年度の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 事務部門(積水ハウス単体従業員) 労働災害度数率0.3・業務上疾病度数率0.0 ● 生産部門(積水ハウス単体従業員) 労働災害度数率0.0・業務上疾病度数率0.0 ● 生産部門(委託業者) 労働災害度数率0.3・業務上疾病度数率0.0 ● 施工部門(委託業者のみ) 労働災害度数率3.0・業務上疾病度数率0.2
Check	評価	△
Action	2016年度目標	各事業所の安全衛生委員会の積極活用等により労働安全衛生を一層推進する
	関連する取り組み	<u>労働安全衛生マネジメントシステム</u> <u>労働災害発生状況</u> <u>施工現場での労働安全衛生活動</u> <u>安全衛生教育研修の実施</u>

労働安全衛生マネジメントシステム

厚生労働省が推奨している「労働安全衛生マネジメントシステム」に、施工現場の特性を加味して独自に構築した「積水ハウス危険ゼロシステム」を組み入れ、危険要因を減らす安全衛生管理活動を展開しています。

施工関係者が安全で健康に働ける環境整備を目指して

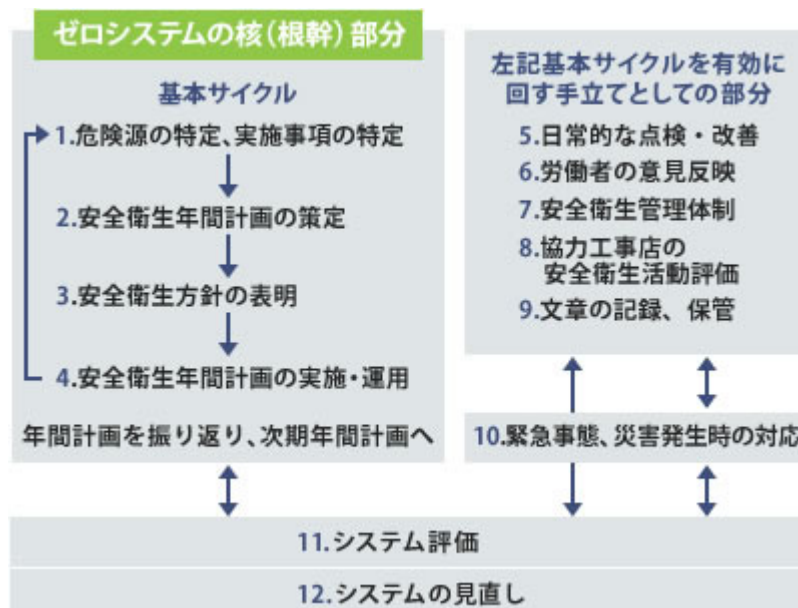
住宅の施工段階では、現場で多くの関係者が業務にかかわります。お客様にご満足いただける高い施工精度を保つためにも、施工関係者が安全で心身ともに健康に働くことができる環境の整備が重要です。積水ハウスでは、従業員のみなならず関係会社従業員や協力工事店の職方さんなども含め、グループ一体となった労働安全衛生マネジメントシステムを整備しています。

独自に構築した「危険ゼロシステム」を運用

厚生労働省が推奨している「労働安全衛生マネジメントシステム」に、施工現場の特性を加味して独自に構築した「積水ハウス危険ゼロシステム」を組み入れ、危険要因を減らしています。「危険ゼロシステム」では、全社及び事業所ごとに毎年作成する「施工安全衛生年間計画」をベースとして、当社や協力工事店の従業員が安全で健康に働けるよう、安全衛生管理活動を展開しています。

今後とも継続して具体的で実効性のある災害防止対策や安全衛生教育研修の実施に努め、関係者が一体となって労働安全衛生水準の一層の向上を目指します。

危険ゼロシステムの概要



労働災害発生状況

2015年度は労働災害・通勤災害の件数が減少しました。休業を伴うものも前年度に比べて減っています。発生した労働災害・通勤災害については、安全衛生委員会で事例を共有し、職場の安全衛生に関するPDCAを実施の上、安全衛生意識を高める、注意力の欠如を招くような超過勤務を減らす、などの対策を一層強化しています。

2015年度労働災害度数率・業務上疾病度数率

(休業1日以上を集計)

部門		労働災害度数率	業務上疾病度数率
事務部門(従業員※)		0.3	0.0
生産部門	従業員※	0.0	0.0
	委託業者	0.3	0.0
施工部門(委託業者のみ)		3.0	0.2

※ 積水ハウス単体

労働災害度数率: 休業(1日以上)労働災害件数/延べ実労働時間 × 1,000,000

業務上疾病度数率: 休業(1日以上)業務上疾病件数/延べ実労働時間 × 1,000,000

施工現場での労働安全衛生活動

施工従事者が安全で健康に働くことができるよう「全社施工安全衛生年間計画」を作成し、災害防止対策や安全衛生教育研修を実施しています。2015年度は、「墜転落災害と電動工具等災害の撲滅」「全員参加意識の醸成」をテーマに掲げ、災害防止対策や事業主研修等を行いました。

2015年度は、災害防止対策や事業主研修等を重点的に実施

施工に携わるすべての従事者の労働安全衛生の確保は、住宅メーカーである積水ハウスの社会的責任であり、重点的に取り組むべき項目の一つです。当社では施工従事者が安全・安心に働くことができるよう、2015年度の「全社施工安全衛生年間計画」では「墜転落災害と電動工具等災害の撲滅」「全員参加意識の醸成」を掲げ、災害防止対策や事業主研修等を実践しました。

具体的には、2015年度スローガン「作業前にひと呼吸 全員参加で本音のKY ヨシ！」を掲げ、当社の年間計画を基に協力会社事業主は安全宣言を公表。施工管理者と共に日常管理を強化し、職長・職方への作業指導につなげ、日常的に安全点検や作業手順書による正しい動作を身につけて主体的にKY活動とそれを実行してもらうことを期しました。当社はその支援・フォローとして事業主研修を実施し、必要な備品の支給、脚立・外部足場・電動工具等の安全点検表帳票を配布し、年間計画スケジュールにて月・期単位で進捗を把握し、PDCAサイクルを回しながら安全レベルの向上を図りました。

2015年度 災害発生状況

1. 2015年度は災害防止対策や事業主研修等を実施したことにより墜転落災害と電動工具災害は減少しましたが、不安全行動や第三者を巻き込む事故に直結しかねない重機災害をなくすことができませんでした。工事量の増大のほか、現場作業員への安全情報の伝達不足も原因として挙げられる他、例えば脚立使用の際、時間がない、面倒くさい、教えてもらっていない等の理由でがたついた所に設置して転落する、保護メガネを使用せず目に鉄粉が入る等のヒューマンエラー災害も発生しました。
2. メリハリのある安全活動の推進のために7月を強化月間「安全の月」と定め、特に熱中症防止対策を強力に推し進め、労働災害は低減基調となりましたが、個人の体調とも関係が深く、撲滅には至りませんでした。

2016年度スローガンは「感知即動!! 自ら実践 安全作業 ヨシ!!」

労働災害の不安全行動による増加傾向を踏まえ、2016年度「全社施工安全衛生年間計画」に「不安全行動と不安全状態は、即是正」「墜転落災害(脚立・ハシゴ・足場)と重機災害(移動式クレーンの転倒防止)の撲滅」「各事業所、発生件数を前年度比減」を掲げました。協力会社事業主だけでなく職長・職方(若い経験の浅い新人も)も含めた全員が一緒に主体的に参加することで労働災害の低減を進めます。

2016年度は現場作業者本人が作業開始前の点検で、作業場所・床・通路等の作業周辺の環境や安全設備(脚立、足場、ハシゴ等)の不安全状態やこれから行う作業で起こりうる危険を感知したら速やかに是正するのはもちろん、作業者本人が気付かない危険は、職長・施工管理者・事業主・現場監督等が指摘して、気付かせることにより、不安全行動を現場から排除していきます。また、熱中症発生の頻度が高い7月は2015年度と同様「安全の月」として対応を強化していきます。



これまでの取り組み

■ 1994年度から、「安全管理者選任時研修」を毎年実施

労働安全衛生法に定める安全管理者として必要な実務知識の習得と、安全管理者の資格条件を補完するための新任安全管理者を対象とする研修を社内で毎年定期的 to 実施しています(2015年度は61人が受講)。

■ 「事業主研修」を毎年実施

当社では毎年、協力会社事業主を対象とした事業主研修を実施。労働安全衛生法、労働基準法等の法令知識や、墜落防止措置、電動工具や脚立・梯子の正しい使い方、安全衛生保護具の正しい着用方法、労働保険関係の帳票等について解説しています。また、期初には協力会社事業主が「安全宣言」を表明。自社の職長や職方に発信し、当社と一体となって安全レベルの向上を図っています。

安全衛生教育研修の実施

工事関係者全員に対して、災害防止対策や安全衛生教育研修を実施。2015年度も、「事業主研修」や「安全推進大会」などの研修を実施し、延べ50736人が受講しました。

積水ハウスは「施工安全衛生年間計画」をもとに、当社グループの従業員だけでなく協力会社の職方さんなど工事関係者全員に対して、災害防止対策や安全衛生教育研修を実施しています。



グループ・協力会社含め、延べ50736人が受講

2015年度も、施工現場の協力会社事業主を対象にした「事業主研修」や施工現場で働く協力工事店の職長・職方に集まっていただく「安全推進大会」などの研修を実施し、延べ50736人が受講しました。年間計画に掲げる具体的実施事項等を公表し、討議発表形式で心に残るよう創意工夫しながら実施しました。また、2012年からは強化月間（「7月は安全の月」と「12月は特別強化月間」）を設定し、夏場の熱中症や年末年始の災害防止、墜転落災害等の低減対策を研修等に盛り込み、実践しました。今後当社グループと協力会社が一体となって、主体的、創造的に労働環境改善、労働災害発生防止に取り組んでいきます。



()内は2014年度実績

受講人数総計	50,736人	(45,222人)
総括安全衛生管理者研修	195人	(201人)
安全管理者選任時研修	58人	(71人)
現場監督研修	280人	(116人)
事業主研修	3,545人	(4,870人)

職長教育	1,464人	(1,373人)
職長教育能力向上研修	3,073人	(1,830人)
職種別研修	852人	(2,084人)
安全推進大会	28,971人	(26,805人)
その他	12,298人	(7,872人)